

一度「理解」したことを「定着」させるには

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

暖かくなりましたが、皆様いかがお過ごしですか。梅の花などがきれいに咲いていますので、外に出てそれらの草花を觀賞されてはいかがかと思えます。

「開倫塾の時間」は、お陰様でこの3月で18年目を迎えました。初回以降、学習の仕方、特に、どのように学習したら高い効果が得られるかについてずっとお話をしております。

先々週は、高い学習効果は＜学習時間×学習方法＞で決まるという話をしました。かけ算ですから、どんなによい学習方法をとっても、学習時間がゼロであれば効果はゼロです。また、いくら長い時間勉強しても、学習方法が誤っていれば、やはり効果はゼロになってしまいます。

では、どうしたらよいのか。そのことについて、先週からお話しています。学習には3つの段階があり、「うん、なるほど」と腑(ふ)に落ちることを「理解」の段階と言います。「理解」したことを身に付けるのが、「定着」の段階です。そして、最終的には、「理解」「定着」したことを、試験や実際の生活の中で役立てることができるようにします。これが、「応用」の段階です。先週は、この「学習の3段階理論」の中の「理解」について詳しく説明しました。少しおさらいしてみます。

授業の場面が多いでしょうが、先生の話「理解」するにはどうしたらよいのでしょうか。テキストやいろいろなプリントなどが用意されている場合には、両手を机の上に置いて背筋を伸ばし、先生の目を見ながら、つまりアイコンタクトをとりながら真剣に先生の話「聴く」のがよい方法です。また、授業の場面だけではなく、社会人の皆様を対象とした講演会などでは、教科書やプリントなどを用意されない先生もいらっしゃいます。このような場面で話を聴くときは、大切と思われる内容や箇所を必死になってメモに取るのがよい方法です。もちろん、メモを取る必要のないときは、両手を机の上に置いて背筋を伸ばし、アイコンタクトをとりながら話を聴く姿勢が大事ですよ。

今回は、次の段階である「定着」、一度「理解」したことをどのようにして「定着」させるのかについてお話させていただきます。「定着」とは、まずは、「うん、なるほど」と一度「理解」したこと、つまり大事なことを、何も見ないで口をついてスラスラ言えるまでにすることです。次の段階は、口をついてスラスラ言えるようになったことを、何も見ないで楷書で書けるまでにすることです。さらに、算数・数学や理科などの簡単な公式を使った問題、例えば $2 \times 3 = 6$ のような簡

単なものは、問題を見た瞬間に条件反射でパパッと答えが出せるまでにすることをいいます。要するに、「定着」には、一度「理解」したことを口をついてスラスラ言える段階、それを何も見ないで楷書で書ける段階、簡単な計算などは問題を見た瞬間に答えが出せる段階の3つがあるということです。

では、どのようにしたら「定着」が図れるのでしょうか。一番大事なことは、十分な時間をかけることです。一度さっと読んだくらいではなかなか覚えきれません。「定着」とは、覚える・記憶する作業ですから、時間をかけなければできません。それをよく認識して、「定着」のための時間を十分確保してから取りかかっていたきたいと思います。

では、どのようにして時間をとったらよいのでしょうか。これも簡単なことで、必ずしも机に向かう必要はないのです。例えば、バスの中でもできます。この間、東京でバスに乗っていましたら、ある女子校の生徒が、ぶつぶつ言いながら指で英語の書き取り練習をしていました。その日はテストだったのでしょうが、そのようなやり方でよいのです。一度「理解」したことを記憶すればよいのですから、電車・バスの待ち時間や休み時間など短い時間を使って全精力を注いで覚えて下さい。

ただ、一番望ましいのは、1～2時間継続して、学校の図書館や家庭、学習塾の自習室などを使って行うことです。自習室、あるいは自習のために利用できる空教室は、開倫塾はもちろんこの学習塾にもあると思います。図書館や家庭では思うようにできない人は、ここを利用して、「定着」のための作業を1～2時間継続して行うことをお勧めします。

次は、覚え方・記憶の仕方です。「は、だ」というのを定義といますが、この定義を中心に覚えるのも1つです。また、書くのもよい方法です。紙と鉛筆を用意して、ひたすらカリカリと書く練習をして記憶する。紙と鉛筆がないときは、指で書きながら覚えてもよいのです。また、簡単な計算の仕方などは、お風呂の中でも覚えられます。つまり、「定着」のための作業は、いつでもどこでもできるということです。繰り返し行って下さい。

今日の「開倫塾の時間」は、当塾の提唱する「学習の3段階理論」の中の「定着」についてお話させていただきました。次回は、フィンランドのヘルシンキ大学で開催された「OECDの学力到達度調査で、なぜフィンランドが学力世界一になったのか」について考えるセミナーに参加してきましたので、その報告をさせていただきます。楽しみにしていただければと思います。